

老いの學び

土田龍太郎

年ふればよはひの老いぬるはげにさがりたきことわりにて、おのれ耳順に至りしもはや十年あまりの昔とぞなりぬる。されば身のいたつきこかしこ數そひゆきて、腰いまだかがまらねど、杖にすがらでは徒歩かちありきだにあやふければ、絲によるものとはなけれどもわが命の道の行くへただ先細りゆく心地してうたてわびしきこと言はむかたなし。

さはいへどわが心のはたらきいまださまで老いづきほけしれたりとも思はれず。才學の方に寄する志、身の衰へとはうらうへにてなかなか募りゆくめれば、せめては老いのすさみなりとも、をりをりは書籍に向かひて見ぬ世の人を友とせばつれづれ慰むことのありもやせむと思ふ心のつきぬるは、一期の妄執のつひのはてにてもやあるらむ、はたよろづにいさぎよからざるおのが生れつきたる性ゆゑならずとも言ひがたかるべし。

才學いかばかり積もれりとも、この世の外までえしも携へもてゆくまじ、いはむやいつ絶えなむも測られぬ玉の緒、つゆの命の短きに今さらにも學ばむともなにかはせむ、なまじひに才學の身のほだしとなりなば黄泉路よみちのさはりとなるまじきにもあらねば、させるせむなきすぐとただうちやみなむにはしかじと誇り嘲らむ人世に少からざるべし。

されば老い人のもの學ぶこと、そもえうありやえうなしや、せめて一わたりだに考へおかではあるべからず。かく思ふにまかせて古き典ふみどもいささか尋ね見るに、これにつきて大和唐土ちゆうしの賢き人の言ひおけることげにくさぐさあれど、ここにはただかの顔之推の説けりしことばかりこそ引かまほしくおぼゆれ。

顔氏家訓八卷今に遺りたれど、その第三卷の内にまた勉學篇ありて晩學のいさをにも説き及べり。ここにて顔氏のあるる晩學の例ためし少からず。曾子の學びそめしときよはひすでに七十才に及びたりしかもその名天が下に聞え、荀卿五十にしてはじめて齊に遊學せしかどもつひに碩儒となるをえたりと言へり。さはれ拙きわが身さながら曾子荀子になぞふべしとおぼえず。しかも顔氏のここに説ける晩學とわが思ふ老いの學びとことがら必ず同じとも言ひがたし。

曾子荀子のことはともかくもあれ、同じ文節の奥に載れる譬喩たくみなることよなければ、ここにさらに見過すべからず。顔之推の言へること古語によれりとおぼしけれど、おほかた左のごとく延べ釋とくをうべし。

若くして學ぶはさながら出る日の光のごとくなりとせば、老いて學ぶは燭ともしびを乗りて夜行くにことならず。風吹かばやがて消えなむ夜の燈ともしび、あやふくはかなきことこのうへなけれど、いかばかり弱くかすかなる光なりとも、燈一つ手にとりゆかば、目瞑しむりてもの見ることなきには、なほいくへにも勝まさりなむ。

老い人のもの學びを勧めむに、これに過ぎたる譬へありとも思はれず、心慰むることおほかたならねば、たへにめでたきこといふはかりなし。老いの闇路をからくも辿りゆかむには、かそけくはかなき學びの燈をたよりとせむほかにすべなかるべし。

(令和元年五月二十七日受附)